チリ経済（アイセン水力発電所計画の中止：報道）

11日，当地エル・メルクリオ紙はアイセン水力発電所建設計画（Proyecto Hidroelectrico Aysen）について，関係閣僚から構成される閣僚委員会が計画中止の判断を下したと報じているところ，右概要以下のとおり。本プロジェクトは2004年に電力企業であるENDESA社により，第11州ベーカー川とパスクア川に，ダム及び計5基の発電機を設置するものとして発表され，2006年からENDESA社とCobun社による事業推進会社であるアイセン社（Centrales Hidroelectricas de Aysen）によって計画が進められてきた。完成すれば2750MWの電力を首都圏を含むSIC（中部電力網）に供給することが期待されていた。

【見出し】

 「閣僚委員会満場一致でアイセン水力発電所建設計画を却下」

【本文要旨】

１．「ア」計画は，3年前からプロジェクトの環境評価決議書に反対する者から提出された35件の異議申し立てに関する閣僚委員会の決議を待っていた。出された結論は，満場一致で，この10年間で最も象徴的な水力発電所建設計画を却下した。「与えうる全ての影響を考慮していない上，影響緩和，修復，保証のための対策のないプロジェクトは却下しなければならない」とバデニエル環境大臣は述べている。また，今回の決議は環境制度が機能している証拠であると付け加えた。パチェコ・エネルギー大臣は，「重要な点に関して考慮されていないプロジェクトであり，私の個人的な意見としては，正しく実施されていないプロジェクトである。今日わが国では影響を受ける可能性のある人々について考慮されていないこのようなプロジェクトを実施することはできない。これが，今日の話し合いから我々が得るべき教訓である」と強調した。

２．「ア」社は，これまでに3億2千万米ドルの投資を行っている。このイニシアティブはベーカー川とパスクア川に５基の発電所を設置するもので，発電所建設と送電網敷設合わせて約100億米ドルを必要とする。本プロジェクトはSICに，同システムの20%

に相当する2750kwの電力を，2050年までに供給する見込みだった。

３．今年に入ってから「ア」計画に関して今回を含め，3度閣僚委員会が開かれている。1度目は本年1月にピニェラ政権によって召集され，異議申し立てに関して部分的に解決をみた。新たな調査を開始することとし，結論は現政権に委ねられた。そして3月に現政権に代わってから，環境大臣，エネルギー大臣，鉱業大臣，農業大臣，経済大臣，保健大臣からなる初めての委員会が開催され，「ピ」政権の決議を無効にすることが決まった。

４．そして3度目となる今回の閣僚委員会では，全ての異議申し立てを分析し，次の点が大きな欠点として挙げられた。

（１）移転計画の欠如：住民の移転計画には，受け入れ場所の提示もなく，また，受け入れ先の経済的持続性を伴う収容能力に関する調査もされておらず，妥当なものではない。プロジェクト実行のための環境調査は影響緩和，修復，保証の対策が盛り込まれて初めて承認される。そうでなければプロジェクトは却下される。

（２）水文学上の変化によるインパクト：「水生生態系の観点から，水文の変化が環境に及ぼす影響が適切に数値化されていない」旨「バ」環境大臣は昨日述べている。本計画はベーカー川とコロニア川の合流地点の環境影響を評価していなかった上，DGA（水資源総局）とSERNAGEOMIN（地質・鉱業庁）から要請のあった浸水リスクのモデルを提出しなかった。また，毎日の河川の水位の変化が与える悪影響についても評価していなかった。

（３）動物相への影響：プロジェクトはシカ科に関する調査のみを行い，肉食動物や両生類に関する対策はとられていなかった。発電所による干渉や浸水などに起因する動物の移動が及ぼす影響分析が不足している。

５．プロジェクトの失敗は，以前より現政権から予告されていた。電力業界の多くの関係者が本計画の運命は，あたかも「予告された死の記録（注：原文"Cronica de una muerte anunciada"）」であるとして意見が一致している。それは環境当局の環境評価決議書を発出し，最高裁がプロジェクト中止を求める環境団体の上告を棄却した後も，2年半以上閣僚委員会にかけられていたためである。昨年の大統領選挙後まで延期されていた「ピ」政権の閣僚委員会（プロジェクトに反対する異議申し立てを部分的に解決したほか，追加調査の必要性も提示した）では，本件の最終決定をバチェレ政権にゆだねることとした。2013年6月，当時は大統領候補だった「バ」現大統領が，「パタゴニアにおけるメガプロジェクトは実現性がない」と言及していたことから，（最終的な成否を「バ」政権にゆだねるとされた時点で）本計画は日の目を見ないことがはっきりした。「パ」エネルギー大臣は，3月12日に就任した直後，「大統領は再三にわたって「ア」計画は現在のままでは実現性のないプロジェクトであると表明している」と拒絶する考えを強調していた。「バ」環境大臣は，「「ア」計画は解決すべき35件の異議申し立てを抱えており，そのために実現性がない」と述べていた。

６．プロジェクトの投資家に近い人々や業界筋は，閣僚委員会が挙げた理由は解決可能なものであり，資金（3億2千万米ドル）と時間を投下した後で，論証，訂正，補完する機会を与えられなかったことは理解できないとしている。これは，第3州で計画されたプンタ・アルカルデ火力発電所など，事後的に排出量に関する調査や測定を行うことを条件付けた上で承認された案件があるからである。新しい状況においては環境評価決議書も最高裁の判断も保証にならないため，今回の決議は投資家にとって新たな不確定要素や投資阻害要因となることを示している。（了）